

目標6「安全な水とトイレを世界中に」

～すべての人に安全な水と衛生的な環境を～



世界では、約22億人が安全な水を利用できず、約42億人が衛生的に管理されたトイレを使えないなど、不衛生な環境状況のもと、感染症の危険にさらされながら、日常生活を送っています。また、こうした不衛生な状況による疾病で毎年200万人以上の命が失われており、しかもその大半は、子どもが占めています。今後、経済発展や人口増加、地球温暖化などの影響により、世界で慢性的な水不足に陥る可能性があります。

日本では、安全な水・トイレの設備が整っている一方、一人あたり1日約200～300リットルものたくさんの水が使われています。しかし、暖冬の影響による積雪量の減少や渇水による水源の枯渇、工場や生活排水による水質汚染などが発生すれば、安全な水を利用できなくなる可能性もあります。

普段から、節水を心がけたり、水をできるだけ汚さないよう意識するなど、今、不自由なく使っている安全な水を大切に使うことで、水不足の予防・解消につながります。

私たちにできること

- ❑ 水道の蛇口をこまめに止める
- ❑ 風呂水を洗濯や水撒きに再利用する
- ❑ 洗剤、石鹸、シャンプーなどは環境にやさしいものを使う

など

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

～すべての人が安く安定した持続可能な近代的エネルギーを使えるようにする～



電気は、私たちの生活に欠かせないエネルギーですが、世界の5人に1人、12億人以上が、電気を利用できていません。また、約30億人が、調理や暖房にクリーンなエネルギーを使用できず、汚れた空気の中で生活を送っています。

今後、開発途上国の経済成長に合わせて、エネルギーの消費が増えると考えられますが、石油や石炭に依存した生活や経済活動は、自然環境に大きな影響を及ぼすことから、環境への負荷を軽減させるため、太陽光や風力・水力などの再生可能エネルギーの活用拡大が必要とされています。

日本は、世界第4位のエネルギー消費国ですが、エネルギー自給率は9.6%と海外と比べて低く、海外からの輸入に頼っている状況です。

普段から、節電を心がけ、エネルギーを無駄なく上手に使う工夫をすることで、環境に優しい生活や社会の実現につながります。

私たちにできること

- ❑ 電気はこまめに消す
- ❑ 冷蔵庫は開けたらすぐ閉める
- ❑ 使わないときはコンセント（プラグ）を抜く

など

目標8「働きがいも経済成長も」

～経済成長を続け、すべての人に働きがいと十分な収入のある仕事を～



世界全体の失業率は約6%で、失業者数は推計で約2億人を超えて増え続けています。一方で、就業者のうち約4億7,000万人は、希望する仕事、働きがいや十分な収入を得られる仕事に就いていない状態にあります。

このように、すべての人が公平な労働環境にあるとは言えず、さらには、劣悪な状況で強制的に労働が行われている国や地域もあります。現在でも、子どもの10人に1人、1億人以上の子どもが過酷な労働に苦しんでいると考えられています。

日本でも、長時間労働やサービス残業、過労死などが大きな問題となっています。また、正規社員と契約社員や派遣社員等との収入格差も広がっています。特に、育児や介護などの負担が大きい女性が時間的拘束を理由に短い時間で働くことを選ばざるを得ないという現状もあります。

働きがいがあり、十分な収入と権利が平等に保障され、一人ひとりが無理なく働くことで、持続可能な経済成長につながります。

私たちにできること

- ❑ ワークライフバランスを考えて働く
- ❑ ITやAIなどのテクノロジーを活用する
- ❑ 地元の商店で地元産のものを買う

など

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS